



国際ローター第2680地区
Rotary
加古川ロータークラブ



2023-24年度RI会長:ゴートンR. マツキナリ/地区ガバナー:安行 英文
加古川ロータークラブ会長:釜谷 和明 / 幹事:吉田 太郎
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和6年2月27日(火) 晴 No. 31



▲会長挨拶



▲前川容洋会員卓話

会長の時間

会長 釜谷 和明

皆さんこんにちは。

4月下旬の暖かさの翌日に真冬の寒波到来があり、寒暖差が激しくなっております。この季節に「気象病」が流行ると聞きました。気象病とは、気圧、温度、湿度などの変動によって起こる不調のことだそうで、もともと頭痛や関節痛がある方などでは、その症状が悪化するそうです。年齢のせいなのかと考えていた症状が気象病と言う名の症状かもしれません。無理せず、しかし少しだけ背伸びして動く事が大切かなとも思います。皆様どうぞご自愛ください。

本日が2月最後の例会となります。そして週末には地区大会が開催されます。参加された事のない会員の方がいらっしゃいましたら、所属する RC の年に一度のイベントでもあります。何かと感じる事も多いのではないかと思いますし、本年度は前川容洋会員が式典にて在籍50年の表彰を受けられます。おめでとうございます。是非皆様も式典会場でお祝いして頂ければと思います。積極的なご参加をお待ちしております。

まだまだ先だと思っておりました70周年記念式典・懇親会も2カ月を切りました。会員の皆様には何かとご苦勞をおかけしておりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

本日は、前川容洋会員の卓話です。数年前、鶴林寺で行われておりました鶴林寺文化財保存会総会の席で元会員の西尾様の奥様のお話し、そして前川容洋会員を「前川君」と呼ばれていた同級生の女性の方との再会から話が進んできたのが今日の卓話のタイトルだと勝手に思っておりますが、楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。

幹事報告

- 1) 今週3月2日、3日は地区大会です。
2日目の3日は、9時30分に来場可能な方は受付周辺にお集まりください。
よろしくお願ひいたします。

臨時理事会

2024年2月14日送付2月21日書面表決により承認
理事数10 参加数10 賛成10 反対0

《審議事項》

1) 第44回 RYLA セミナー受講生推薦に関する件

RYLA セミナー参加者として1名クラブより推薦し、受講生参加費5万円はニコニコ会計青少年奉仕より拠出することで承認。

ニコニコ



- | | | | |
|---|---|---|--|
| 省 | 略 | ☺ | 前川容洋会員、本日の卓話楽しみにしています。よろしく願いいたします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川会員、本日の卓話よろしく願いいたします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川さん、卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 例会いつも欠席ばかりですみません。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川さん、卓話ご苦労様。
楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川容洋会員、卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川容洋会員卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川様、卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川さん卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川容洋会員の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 前川容洋会員、本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | やまとたけるとうまやとのおうじ、日本の始まりのお話楽しみです。
4月に天孫君臨の地高千穂神社、天の河原天の岩戸行くのに良い勉強になります。 |
| 省 | 略 | ☺ | 13日のインフォーマルミーティングありがとうございました。その後も釜谷会長、吉田幹事、ありがとうございました。 |
| 省 | 略 | ☺ | テーブルの花いただきます。 |

以上14件 ¥24,000-
本年度累計¥1,337,000-

出席委員会

- | | | |
|-----|--------|---|
| ☆ 今 | 週 | 会員数 75 名 出席 45 名 出席免除 12 名 欠席 18 名 |
| ☆ 欠 | 席 | 者 省略 |
| ☆ 前 | 々 | 週 会員数 75 名 出席 75 名 出席免除 0 名 欠席 0 名 |
| ☆ | メークアップ | 加古川平成 RC 2/21 船原、橋本直、木下、高見
2025 学年度米山記念奨学事業 学校説明会 2/22 高田
第3回環境の保護小委員会 2/25 芝本、河合 |

親睦活動委員会

例会場当番

- | | |
|----------|--------|
| 3月 5日(火) | 大辻、前川容 |
| 3月12日(火) | 小田、松尾 |



プログラム委員会

本日2月27(火)	3月5日(火)	3月12日(火)	3月19日(火)
卓話 「やまとたけると うまやとのおうじ」 DVD鑑賞 前川容担当	新会員自己紹介 前田担当	クラブ協議会 地区大会後	卓話 金田担当

3月のおよろこび

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝

- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

犬たちへの愛のために

韓国のロータリークラブ会員が犬にやさしい奉仕プロジェクトを実施

文：Seoha Lee

防護服を着た 20 名の若者が、ゲートを開けてフェンスで囲まれた庭に入ります。するとあっという間に何十匹もの大型犬が若者たちに群がります。

元気よく尻尾を振り、人の手を舐め、ぐるぐるとその場で回って、ふざけるように訪問者を頭で押してきます。その喜び方は、人をひっくり返すのではないかと思えるほどです。これは、韓国の利川(イチョン)市にある犬の保護施設での日常です。

「犬たちは嬉しくて飛びかかってくるから、防護服を着用しなくては」と、韓国京畿道の MZ ロータリーE クラブの代表幹事であるソンヒー・リムさんは話します。「興奮してじゃれついてるので服に毛が付きますし、引っ掻き傷ができることもあります」

クラブ会員が訪れるこの犬の保護施設は、「捨て犬たちの森」を意味する「Yugigyeon Soop」と呼ばれ、大型犬を専門としています。韓国原産の犬種である珍島犬やシェパード、シベリアンハスキー、ラブラドルレトリバーなど、約 100 頭を飼育しています。しかし、ほとんどの犬は正確な品種が分かっていません。また、多くの犬が四肢の一部を失っていたり、目を怪我していたりします。

保護施設のオーナーであるジュンサン・パクさんは、当初、犬用のホテルを経営していましたが、時おり犬を捨てる人がいたため、パクさんはその犬たちの世話を始めました。1 匹の犬が 2 匹になり、2 匹が 10 匹になり、最終的に犬の保護施設を設立しました。

「大型犬を受け入れる保護施設は多くありません。特にこのような犬たちはなおさらです。けんかをしたり怪我をしたりしたことがあるため、ほかに行く場所がないのです」とパクさんは言います。始めの頃はいくつかの受け入れ先の家庭を見つけることができましたが、結局ほとんどの犬が施設に戻されました。

「もう二度と彼らに同じ思いをさせたくありません」と彼は話します。「私はただ、この犬たちがここで、その最後の日まで幸せに暮らしてほしいと願っています」

韓国では多くの人がアパート/マンションに住んでいることもあり、大型犬を飼うのが難しい場合があります。庭や開放的な空間があることは稀で、大型犬の飼育放棄率の高さにつな

がっています。新しい家庭を見つける場合、それが保護施設や一時的な里親であっても、状況は困難です。

保護施設から引き取られた犬たちでさえ頻繁に施設に戻され、安楽死となることが珍しくありません。2023年の4月から10月の間に、京畿道の動物保護施設に受け入れられた小型犬や中型犬(15キログラム以下)の安楽死が25%だったのに比べ、15キログラムを超える犬は39%でした。



京畿道（韓国）にある MZ ローターリーEクラブ（「MZ」はミレニアル世代と Z 世代にちなむ）の会員は、定期的にイチョン市にある犬の保護施設を訪れ、犬と遊んだり、訓練を行ったりしています。また、施設を掃除し、ドッグフードや毛布を寄贈しています。
写真提供：Seong Joon Cho

犬たちは飼い主から捨てられましたが、今も人と友好的に過ごし、保護施設での仲間たちとの生活を楽んでいることに違いはありません。クラブ会員は施設を清掃し、寝床を交換し、物資の寄付をします。そして何より大切なこととして、犬たちと一緒に時間を過ごします。

「犬たちが最も必要としているのは人との触れ合い」だとパクさんは言います。

今日、クラブ会員は犬のフィラリアや寄生虫の薬を持ってきました。ペーパータオルやゴミ袋、毛布やカーペットも集めてきました。

「毛布はたくさん必要になります。一枚敷いたとして、それがぼろぼろになるまで 1 カ月かかりません」とリムさん。「毛布に付いている人の匂いが、犬たちに感情的な心地よさを与えるようです」

ミレニアル世代と Z 世代にちなんで名付けた MZ ローターリーE クラブは 20 代と 30 代のメンバーを擁し、2022 年に奉仕に焦点を当てて設立されました。

「若者はお金はあまり持っていないかもしれませんが、エネルギーがあります。私たちのクラブのモットーは『奉仕という行動を起こす』です」とリムさんは話します。「この保護施設が、何度も飼育放棄された犬たちを息を引き取るまで世話しているということを知り、私たちは 4 半期ごとに支援することにしました」

クラブの奉仕プロジェクト委員長であり配管工事会社のオーナーでもあるキュンミン・パクさんは、ロータリーの職業奉仕に対する取り組みを高く評価しています。

「施設関連のニーズがあるならば、保護施設のオーナーと話し合う予定です」と彼は言います。「私たちのクラブには私のような配管の専門家や、インテリアの専門家がいます。誰かに必要不可欠なタスクが、私たちにとっての得意分野かもしれません」

クラブ会員が保護施設から出なくてはいけない時間が迫るにつれ、ボランティアと犬たち両者に、離れがたいような寂しさが生まれます。もう一度触れようとフェンスの向こうに手を伸ばす会員の周りに、犬たちが集まります。

「若者を惹きつけるには、直接会って実践的、体験的なボランティア活動をする必要があります」と、犬を撫でながらキュンミン・パクさんは言います。「私たちの活動はまだ始まったばかりです。これから年を重ねて行き、成長して行きます」